

# オーガスタンの まなざし



主教 小林 尚明

## 『高知での主教会』

2月6日(月)～8日(水)まで、高知会館と高知聖パウロ教会を会場に第250主教会が開催されました。

2月と10月は各教区を訪問し、6月は東京三鷹にあるナザレ修道院を会場とします。

今回は神戸教区の担当で、2月ですから吹雪で飛行機が欠航しては大変と高知が選ばれました。高知を提案された主教さんは、今年3月末で定年退職される吉田雅人主教が若い時、勤務されていたことを考えられたのかもかもしれません。事実、主教会が終わった後、8日の昼食を高知の信徒の方々と吉田主教は共にされてい

ました。

会議では、首座主教の報告や各担当主教の報告、総主事報告など様々です。例えば、私の担当は、年金委員会、ミッション・ツアー・シーフェラーズ、立教英国学院、「み国が来ますように」です。今年の「み国が来ますように」の冊子も承認されました。

多くの話し合いの中で、「ウクライナのための祈り」も話題になりました。ロシアによる侵攻から一年が経ち、双方に人的、物的な大きな被害が出ています。教会は、「どちらに正義があるか」を判断することよりも、人為的な力によって苦しむ人がいなくなるように祈るべきだと思います。そういう意味で、このお祈りを続けるのか、それとも祈り書の諸祈祷の中のお祈りを用いるのか、各教会、教役者に任せることになりました。今、現職の主教たちは、10人です。私たちの為にもお祈りください。

(神戸教区主教)



今年の11月10日(金)～13日(月)に山梨県清里にある清泉寮で開催される「日本聖公会宣教協議会」には各教区から教区主教、宣教担当を含めて8名、そして日本聖公会総会で定められた各委員会などの諸部門の代表、そして実行委員が集まる予定です。そして、協議会のプログラムも多くはオンライン配信を予定しており、実際に清里に集まるメンバーだけではなく日本聖公会につながる皆さんと一緒に時間を共有し、今後の日本聖公会の歩みについて思いを深め、共に歩み出していきたいと願っています。

各教区からの参加者、各委員会などの諸部門からの参加者が決まりつつありますが、参加者を対象とした「宣教協議会参加者オリエンテーション」を4月23日(日)と4月

27日(木)の2回に分けてオンラインで行う予定です。

参加される方の中には、また参加されない方も「宣教協議会って何を協議するのだからか」という思いを抱かれています。方もいらっしやると思います。

宣教とは、神様が主体となつてなされる神の国の完成を目指す絶え間ない働きであり、私たちはその働きに招かれていきます。そして、その招きに応えて神の国を目指す旅をしています。神の国のしるしはこの世界の中にあります。それに気づき、発見することによって私たちの心が開かれ、育てられていくことを願って協議会が行われます。

日本聖公会の今後の歩みを考えるすべてのプロセスは神の国を目指す旅であり、祝福されていることを皆さんと分かち合いたいと思います。協議会が私たちにとって希望となり、神様からの祝福を感じられる機会となり、私たち一人一人が元気になると思います。そしてその「元気」を一人でも多くの方々と分かち合っていきたいと思っています。旅には喜びもたくさんありますが、苦難もたくさんあります。その苦難を乗り越えて旅を続けていくためには希望が必要です。宣教協議会の主題聖句は、「私はぶどうの木、あなたがたはその枝である。人が私につながっており、私もその人につながっており、ば、その人は豊かに実を結ぶ。私を離れては、あなたがたは何もできないからである。」(ヨハネ15:5)です。神の国を目指す旅は、イエス様を離れては続けられません。

どうぞ、私たちがイエス様から離れずに旅を続けていくことが出来ますようにお祈りします。「清里への道」が祝福されますように。

(東北教区 司祭 越山哲也)